

ANNUAL REPORT 2013

About IVPF

Talk

1

Voice:D

oice:Donors

Support

# 社会を変える ファンドができました。

課題が複雑化する現在の日本社会で、 寄付や慈善事業に新たな役割が求められています。 困難な状況にある人々を助けるだけではなく、 前例の無い社会の仕組み作りに投資をする。 それが新しいフィランソロピーの役割ではないでしょうか。 JVPFは重要な社会課題を解決する事業を発掘し、育成する、 社会にとっての「リスクキャピタル」を目指していきたいと思います。 それは企業にも政府にも担うことが難しい、 民間の社会的投資の新たな可能性です。 私たちの活動を通じて一人でも多くの方が

日本の未来を作る事業に参画して下さることを祈っております。



### ANNUAL REPORT 2013

### **INDEX**

JVPFについて	03	About JVPF
対談: SIP代表理事 白石 智哉×日本財団会長 笹川 陽平	05	Talk:Tomoya Shiraishi (CEO, SIP) × Yohei Sasakawa (Chairma
社会的事業育成の生態系とJVPFの役割	07	Ecosystem for developing social activities and the role of
日本の社会的投資セクターの成長を目指して	08	To develop the social investment sector in Japan
選定委員会、ワーキンググループメンバーの紹介	09	JVPF Selection Committee, Working Group
寄付者からの声	12	From Donors
支援先:放課後NPOアフタースクール アフタースクールについて ● アフタースクールで変わっていく子どもたち ●	13	Grant Recipient : After School  About After School  Children Being Changed by After School
支援者からの声	19	From Supporters
寄付をお考えの皆様へ	21	Making donations
企業の皆さまへ	22	Collaboration with corporations
2013年度の活動内容	23	2013 Activities
財務状況、寄付者名簿	24	Financial position / Donors list
SIP/日本財団 概要	25	About SIP / The Nippon Foundation

## JVPFについて About JVPF

経営支援を通じて社会的事業を行う組織の成長をサポートし 社会的インパクトを拡大する為に設立された国内初の 本格的なベンチャー・フィランソロピー(VP)基金です。短期 的な支援から長期的な投資へ、お金だけの支援から人的 サポートへ、プロジェクトの支援から組織基盤の強化へ。 私たちが目指すのは社会貢献活動のパラダイムシフトです。

日本ベンチャー・フィランソロピー基金 (JVPF) は資金提供と Japan Venture Philanthropy Fund (JVPF) is Japan's first full-scale venture philanthropy fund, established to increase the social impact of social purpose organizations by encouraging their growth through financial and managerial support. From short-term support to long-term investment, from monetary support to networking support, from supporting a project to strengthening an organization – our mission is to bring about a paradigm shift in charity



### 助成だけではなく投資、融資など支援先のニーズ

Choosing from combinations of funding methods including grants, investments, and loans gives us the flexibility to the needs of organizations.









 $now \rightarrow 1 year$ 

3~5年を目処とした中長期の支援を行い、事業 進捗と社会的インパクトの評価・モニタリングを 実施。組織が生み出す具体的な成果を重視する ことで、本質的な社会課題の解決を支援します。

Our support involves a medium-to long-term timeframe of three to five years, during which we evaluate and monitor the project's progress and social impact. By emphasizing concrete results produced by the organization, we promote



now → future 3∼5 year

#### 支援対象先|Target of our support

担保する「事業性」を達成する潜在力のある社会的事業を 支援します。

社会的課題の解決を目的とする「社会性」、複雑化する課題 We support social purpose organzaitons (SPOs) that have に対する解決策の「革新性」、事業としての持続可能性を the potential to achieve "sociability" for the resolution of social problems, "innovativeness" of solutions to complex issues, and "business sustainability" that quarantees the sustainability of projects.

経済格差の拡大に伴う 教育機会の不平等、子どもの貧困 や自尊心の低下など、日本の未来を左右 する教育の課題に取り組みます。また、若年層 の失業率上昇、ひきこもりやニートの増加など、 若者が直面する生きにくさや就労の課題解決 を支援します。

Education and Support for young job seekers We are working to resolve educational issue that will have a significant impact on Japan's future, including inequality in educationa opportunities, children's poverty, and low self-esteem stemming from economic disparities within the country.

育児・ 女性の 活躍

産みやすく、育てやすい 社会を実現する事業を支援し 少子化という日本社会が抱える最大の 課題に取り組みます。また、女性の活躍を 後押しする取組を推進します。

port for women and child rearing By supporting projects that aim to create a more portive society for having and raising children we are addressing the issue of a declining birth rate, one of the biggest issues facing Japan.

あらゆる社会課題解決の カギとなるコミュニティの創出・ 強化の為の事業を支援します。地域 コミュニティの再生だけでなく、新たな繋が りやソーシャルキャピタルを生む事業を発掘、

育成します。

We support activities that create and strengthen communities, a key factor for solving myriad social issues. We not only support the reforming of communities, we also identify and foster activities that create new bonds and social capital.

#### 支援の内容|What We Do

● 資金提供 | Funding

助成・融資・投資、等を効果的に組み合わせ、1件当たり数千万円規模の資金 We provide funding of 20-30 million yen to each selected SPOs using the most effective combination of grants, loans, and equity.

● 事業戦略の策定|Business strategy

社会問題から事業領域を設定、不足する経営資源を特定し、中長期の事業計画 We help SPOs build medium- to long-term business plans and strategies by identifying the social issues on which to focus and determining what

• 財務戦略の策定 | Financial strategy

事業遂行のための持続的な資金調達の仕組み・手段の構築を支援します。

● 経営参画 | Management support and monitoring

理事として支援先の経営に参加するなど支援先と緊密に連携、複数年に亘る 支援とともに事業執行のモニタリングを行います。

We maintain close cooperation with funded SPOs and provide long-term management support and monitoring, often SPOs serving as the SPOs board of directors.

• その他 | Other areas of support

マーケティング、PR戦略、人事、事業管理体制、経営陣のコーチング、周辺事業者

marketing, PR strategy development, human resources, business administration strategies, leadership coaching, alliance strategies, and systems development for stakeholder performance reporting.

●日本財団 ●一般社団法人ソーシャル・インベストメント・パートナーズ(SIP) SIP代表理事 白石智哉/SIP理事 伊藤健/ 日本財団 経営支援グループ長 吉倉和宏/ 日本財団 復興支援チームリーダー 青柳光昌/ 日本財団 事業企画チーム 工藤七子 案件発掘、支援メニューの検討、 Working Group (随時開催) モニタリングなど 現場レベルでの事業全般の運営と 選定委員会への報告 Group Members Tomoya Shiraishi (CEO, SIP) / Ken Ito (Director, SIP) / Kazuhiro Yoshikura (Director of Management Support, NF) / Mitsukai Aoyagi (Director of Disaster Relief, NF) / Nanako Kudo (Project Planning Team, NF) 選定委員会 SIP代表理事 白石智哉/SIP理事 野宮博/ SIP理事 三尾徹/日本財団 常務理事 前田晃/ 日本財団 経営支援グループ長 吉倉和宏 原則四半期ごと \ 必要に応じて 随時開催 支援先の審議・検討・四半期の 事業全般のモニタリング Selecting enterprises to fund and quarterly monitoring of the overall operation Committee Meithers

Tomoya Shiraishi (CEO, SIP) / Hiroshi Nonomiya (Director, SIP) /

Toru Mio (Director, SIP) / Akira Maeda (Executive Director, NF) /

(Azuhiro Yoshikura (Director of Management Support, NF)



# 成果志向の寄付文化を目指して

Aiming for a Results-Oriented Donation Culture

笹川会長 白石さんを始めとするSIPの皆さんから何か目に見える Sasakawa It has been one year since we set up JVPF based on a 形で社会に貢献をしたいというお申し出を頂き、JVPFを 立ち上げてから1年を迎えましたが、改めて、活動を始めた

きっかけはどのようなことだったのでしょうか? 白石理事 私自身、長くビジネスの分野におりましたが、行政や民間 企業では対応できない課題が増えているように感じてい ました。そういったなかで社会的事業をビジネスの手法 を使いながら持続的に発展させていこうという団体が 日本でも増えていると知り、このような団体の成長に自分 たちのビジネスの経験を活かせるのではないかと思っ たのです。中長期の資金提供と経営支援を行う手法を ベンチャー・フィランソロピー(VP)と呼んでいますが、 ヨーロッパでは、約20年前から民間財団と我々のように 企業投資をやってきた人間が一緒になって取り組んで きました。今ではヨーロッパのVP組織は150団体ほどに 増え、累計の資金提供額は約1,500億円にもなります。 特に震災後、被災した企業に対する支援として必要性を 感じましたし、もっと広く日本の社会課題にVPという 手法を広めていきたいと感じるようになりました。そこで どのようにしたらこの手法を広めていけるのか、という ことを同じ問題意識を持つ仲間たちで話し合ったのが きっかけですね。

笹川会長 震災では日本全国、諸外国からの資金援助も含めて 4,500億の寄付金が寄せられましたが、寄付した方の想 いが本当に受け手に伝わったのかは疑問です。義捐金 については10カ月近くもたってから現場に届いたという こともあり、日本全国・世界からの善意が今一つ見える形 で使われなかったことが残念でなりません。そういった 中で専門性を活かして資金提供と経営支援を行い、お金 を出した後も継続して支援していくというのはとても

proposal by you and your colleagues at SIP to make a concrete social contribution. Would you recap for us the background behind your activities?

Shiraishi I've had a long career in commercial business, but I began to feel that there was an increasing number of issues that neither governments nor commercial-sector companies could address. I also knew that there were social purpose organizations, using business methods to promote sustainable development, and that there was a growing number of them in Japan. I thought I might be able to use my own business experience to help this type of organization grow. This method of providing medium- to long-term financial and managerial support is called venture philanthropy (VP), and in Europe private foundations and private equity investors have been working together for around 20 years. The number of VP organizations in Europe has grown to approximately 150 today, and these organizations have provided a total of approximately ¥150 billion. Since the Tohoku earthquake, I have particularly felt a need to assist companies that suffered damage, and have wanted to promote the wider use of VP to address social issues in Japan. I began talking about how we could accomplish this with other private equity veterans who shared this concern, and that led to the launch of JVPF.

Donations in response to the earthquake, from around Japan and including assistance from foreign countries, totaled ¥450 billion, but I wonder if the donors' thoughts were really conveyed to the recipients. In some cases it took as long as 10 months for the funds to reach the area, and it is unfortunate that these funds could not be used in a

ユニークなシステムであり、大変意義を感じております。 実際に活動を始めてみて、NPOや社会的事業について はどのような印象をお持ちですか?

白石理事 JVPFの活動を通じて、社会的事業の将来を担う若い 経営者がどんどん出てきているということを感じています。 こういった可能性あふれる次世代の社会的事業の経営者 を育成していくということも大きなミッションなのでは ないかと最近は感じています。

笹川会長 JVPFの活動が日本でのアントレプレナーの育成にも 一石を投じてくれればと期待をしています。このような 活動が日本でより大きく広がっていくことを願っており ますが、活動していく上で感じている課題はなにかあり ますか?

白石理事 JVPFの活動はとても学びが多いですが、やはり一番の ポイントは社会的インパクトの可視化でしょうか。営利 事業におけるリターンは分かりやすいですが社会的事業 がもたらす成果は測りにくい。我々は社会的リターンを 最大化するために支援を行っておりますので、成果を 見える化していきたいと考えています。どのような活動を したかではなく、その活動によりどんな成果がもたらされ たのかに対して資金を提供する成果主義のアプローチ が非常に重要になってくるのです。社会的インパクトを 受益者ごとにまとめ、客観的な数字で、わかりやすく 明確に報告していくことができれば社会的事業に対し て資金提供したい、という個人や企業が今後増えてくる と思います。



笹川会長 おっしゃる通りですね。お金を預かる側は透明性と説明 責任の2つを果たすことを自覚して徹底していかないと 寄付者の善意を裏切ることになってしまいます。日本に は寄付文化がないとよく言われますが、私は寄付文化 はあると思っています。寄付文化がないと思われてしま うのは資金の受け手側の責任であり、組織のミッション を明確にして具体的な成果を示すことができればもつ と協力したいという方が出てきてくれるはずだと思って います。

白石理事 JVPFはまだ設立したばかりの小さな活動ですが、具体的 な成果を寄付者や世の中の皆様に一緒に知らせていき、 こういった活動にお金が還流していくような文化を つくっていきたいと思っています。それには時間がかか りますが実績を積み重ねて皆様にご理解いただくこと が必要不可欠です。

笹川会長 非常に社会的意義の大きい活動だと思っていますので、 ぜひ一緒に粘り強く頑張っていきましょう。

今後とも宜しくお願い致します。 白石理事

way that better expressed the kind intentions of the rest of Japan and the world. With this in mind, the idea of using specialists to provide financial and managerial support, and to continue to provide support after the funds have been provided, is a unique system that I consider to be very significant. Now that JVPF is up and running, what is your impression of nonprofits and social purpose organizations?



JVPF's activities have given me the sense that there are many young entrepreneurs stepping up to carry on social purpose organizations into the future. I have recently begun to feel that cultivating this next generation of social purpose organizations managers, and all of the possibilities they represent, is also an important mission for JVPF.

Sasakawa I hope that JVPF's activities will also be a catalyst for the cultivation of entrepreneurs in Japan. We want these types of activities to spread in Japan, but have you see any issues arise so far?

We are learning a lot through JVPF's activities, and I believe the biggest issue is to demonstrate their social impact. It is easy to identify financial returns generated by a for-profit company, but the social impact created by a social purpose organizations is difficult to measure. Our support is intended to maximize social return, and we want those results to be clearly visible. Rather than simply providing funds to sponsor activities, it is very important to take a results-oriented approach that provides funds with a view toward the results of those activities. I believe that going forward, an increasing number of people and companies will want to offer funds to social purpose organizations if we can identify the beneficiaries and report on the social impact using objective numbers in a clear, easy-to-understand way.

I agree. If the recipients of the funds are not thoroughly conscious of the need for transparency and accountability, the good intentions of donors will be undercut. It is often said that Japan does not have a donation culture, but I disagree. The recipients of funds are to blame for people thinking that a donation culture does not exist. I believe that if organizations can clearly state their mission and demonstrate concrete results, more people will want to cooperate.

> JVPF has just gotten started and its scope of activities is still small, but I hope that we will be able to show concrete results to donors and the society. and that this will create a culture in which funds flow back into these activities. This will take time, so we need to be patient while we build up a track

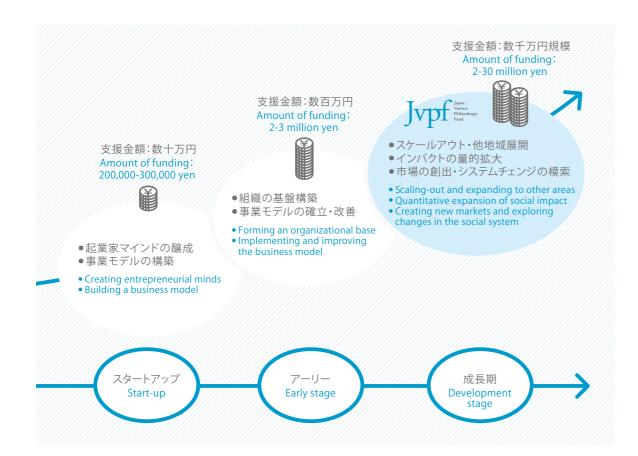
> > 06

Sasakawa I believe this has major social significance, and look forward to working together with you.

Sasakawa Thank you. Shiraishi

# 社会的事業育成の生態系とJVPFの役割

Ecosystem for developing social activities and the role of JVPF

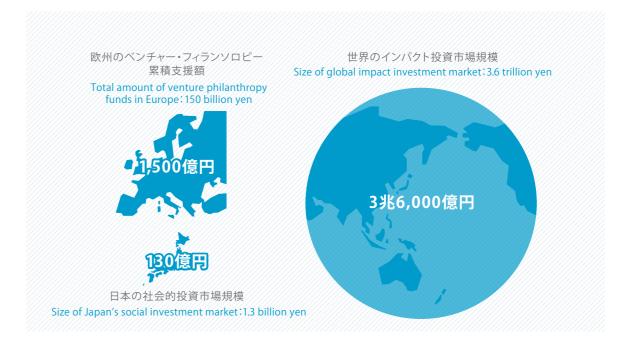


社会課題を解決するソリューションはソーシャルアントレプレナーと呼ばれる個人の小さな活動からスタートします。彼らが生み出したこれまで社会に存在しなかったアイディアを形にし、広げていくためにはビジネスモデルと組織の成長に沿って様々な資金的・非資金的サポートが必要になります。日本ではこれまで、NPO法人ETIC.やNPO法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京のような組織が社会企業家を生み出し、その事業モデルの構築を支援をしてきました。しかし、活動の規模や地理的範囲を拡大していく「成長フェーズ」を支える仕組みが不足しています。JVPFはこの成長フェーズに入った社会的事業を支援し社会的インパクトの量的拡大への貢献を目指しています。

Solutions to social issues often develop from a small project by an individual called a social entrepreneur. To realize and build on their ideas, which are often without precedent, both financial and non-financial support are needed, along with the development of a business model and an organization. In Japan, organizations like ETIC and Social Venture Partners Tokyo have created social entrepreneurs and supported the building of business models. Nevertheless, systems to support "development stage" organizations that aim to expand the scale and areas of their activities are in short supply. JVPF's mission is to contribute to the expansion of social impact by supporting social activities at the development stage.

# 日本の社会的投資セクターの成長を目指して

To develop the social investment sector in Japan



社会的成果と投資収益の両者を追求する「インパクト・インベストメント」やベンチャー・フィランソロピー等、社会的投資と呼ばれる新たな資金の流れは2008年のリーマンショック以降世界中で拡大してきました。インパクト・インベストメントの市場規模は全世界で3兆6,000億円に達し、2020年までに40兆円から100兆円規模に成長すると試算されています。また、欧州におけるベンチャー・フィランソロピーの累計支援金額は1,500億円とされており、英国を中心に成長を続けています。

2013年のG8サミットでキャメロン首相が社会的投資のタスクフォースを創設する等、政策的な動きも活発化しており、今後グローバルに社会的投資を促進する取組が期待されています。2014年4月には日本財団が日本の民間代表としてG8社会的投資タスクフォースに参加、JVPFを始めとする日本の現状を発表しました。JVPFは今後も日本国内の社会的投資セクター全体の成長を後押ししていきます。

データ: Martin, M. (2013) Making Impact Investible. Impact Economy EVPA (European Venture Philanthropy Association) evpa.eu.com Social Investment Landscape in Japan Nippon Foundation The new flow of funds known as social investment, including "impact investment" that seeks both social impact and financial return on investment, and venture philanthropy, has been expanding since the 2008 global financial crisis. The size of the impact investment market is approaching 3.6 trillion yen, and is expected to grow to 40-100 trillion yen by 2020. The total amount of venture philanthropy funds in Europe is estimated at 150 billion yen and continues to grow, mainly in the United Kingdom. Political action, including the social investment taskforce

founded by U.K. prime minister David Cameron at the G8 summit in 2013, has been active, and projects promoting social investment are now expected to become global in scale. In April 2014, the Nippon Foundation participated in the G8 social investment taskforce as a nongovernment representative of Japan, and made a presentation on the situation in Japan including JVPF. JVPF will be promoting the development of Japan's entire social investment sector.

Case Voice: Supporters About Contribution Schedule Financial





JVPF委員会メンバー/JVPFワーキンググループメンバーSIP代表理事

CEO. Social Investment Partners nber of the Selection Committee and Working Group

白石 智哉 | Tomoya Shiraishi

社会的事業とは、収益よりも社会貢献を目標に置く組織だと思います。 SPOs (Social Purpose Organizations) would be defined as それだけに、収益体質を確立する事に無頓着であったり、社会貢献 自体も目前の課題にとらわれがちです。この二つを両立するため、 事業として持続する仕組みづくりとともに、受益者の再特定と成果 を可視化することに念頭におき、事業精査や支援を行ってきました。 JVPFのミッションである社会的なリターンの最大化の一歩として 手応えを感じています。また、次世代を担う多くの社会的事業経営 者に出会っています。彼らが経営者として成長していくインフラを 整える事。成果を社会に伝え、資金や経営支援が効果的に還流さ れる仕組みを担う事。私たちの役割も具体的に見えてきたように 感じています。

organizations whose social impact is larger than its superficial financial figures such as revenue and profits. Its nature sometimes leads that people involved in SPOs tend to pay less attention to profitability whereas they tend to focus on the short-term solutions to social issues in front of them. In order to fill this gap, we have worked with them to achieve both business sustainability and long-term social impact. We have done thorough due diligence, provide managerial support, visualize their social impact in value, and help them to communicate their stakeholders. For the first year, we could have met with some talented social entrepreneurs who would bear the next generation. We need the ecosystem to support those entrepreneurs to become professional management and maximize their social impact by providing finance and managerial support from commercial field. Our role and goal is getting clearer.



IVPF委員会メンバー 日本財団 常務理事 Executive Director, Nippon Foundation

前田 晃|Akira Maeda

本基金の初年度は、SIPの協力のもと実にきめ細かな調査とヒアリング 並びにプロボノによるコンサルティングがなされ支援事業の第一号 を無事選定することができました。これまで"公益事業に対する支援" で"助成業務"に従事してきましたが、助成金による支援が終了する と当該事業が発展・持続できないケースが多くそれが課題でした。 しかしVP初の審査に係わり"持続可能な財源を確保し、かつ適切な 経営・事業運営面での支援を整備する"というVPの特色と強みに 大きな期待を抱きました。この第一号の支援事業が期待の成果を 達成し、VPで歴史的に先行する欧米に追随できることを強く願うも のです。

During JVPF's first year of operations, with the help of pro bono consulting and in-depth research conducted in cooperation with Social Investment Partners, we were able to select our first grant recipient. The Nippon Foundation's traditional model has been based on "grant-giving operations" to "support public-oriented enterprises," but this has led to many cases of our support ending with the giving of the grant, and the enterprise not being able to continue to develop. This first screening, however, had high expectations for the strengths and unique characteristics of venture philanthropy, namely, "to secure sustainable resources, and arrange for appropriate management and operational support." I sincerely hope that this first project will live up to these expectations, and mark a historic first step toward bringing Japan closer to the United States and Europe in the field of venture philanthropy.



IVPF委員会メンバー SIP理事(株式会社ミオアンドカンパニー 代表取締役) Director, Social Investment Partners (CEO, Mio & Company Inc.) Member of the Selection Committ

三尾 徹 | Toru Mio

JVPF/SIPの仕事で社会起業家と呼ばれる(主として)若者たちに 会っていると、とても元気が出ます。自分のこととして取り組む社会 課題をしっかりと見定め、その解決策を持続可能な仕組み(ビジネス モデル) に組み上げていこうとしています。また、ひとりだけでそれ を行なうのではなく、さまざまな人や組織を共感とインセンティブの 組み合わせで巻き込み、大きな社会課題に臆することなく向き 合っています。このような社会起業家あるいは経営者を、自身の持つ 経験やネットワークを活かして支援できるのはとても面白く刺激的で、 ともに学び、より良い社会を築く可能性を感じます。

Meeting (mostly) young social entrepreneurs through my work at SIP and JVPF is very invigorating. These individuals take it upon themselves to thoroughly understand the issues facing society, and create sustainable business models that address those issues. Because these individuals assemble people and organizations that share their goals and incorporate incentives, rather than working on their own, they are able to tackle major social issues without being intimidated. I find it very interesting and stimulating to use my own experience and networks to support these social entrepreneurs and managers, and by learning together, I believe it will be possible to build a better society.



JVPF委員会メンバー/JVPFワーキンググループメンバー 日本財団 経営支援グループ グループ長 社会的投資推進室 室長

Director, Management Support Department, Social Finance, Nippon Foundation mber of the Selection Committee and Working Group

吉倉 和宏 | Kazuhiro Yoshikura

これまで、助成や委託といった、お金を中心とした手法によって 社会課題の解決が図られてきましたが、皆で組織の経営を支援して いくJVPFのあり方は、まさに当財団がスローガンとする「みんなが、 みんなを支える社会」の象徴的な事業となっています。昨年は、初の 支援先として「特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール」 が決定し、本格的な支援は始まったばかりですが、既に次の支援先 も検討中です。支援する側の努力は当然ながら、支援を受け入れる側 の覚悟・度量・熱意に、私たち自身が学ぶ点も多いと感じています。 今後ともJVPFを通じ、支援する側と受ける側の更なる成長にご注目 ください。

To date, the Nippon Foundation has focused on resolving social issues through the monetary means of grant-giving and outsourcing. but JVPF's model of working together to support an organization's management is the embodiment of the Nippon Foundation's mission to "achieve a society where all people support one another." This past year we selected After School as our first grant recipient, and although full-scale support has just started, we have already begun to search for the next recipient. In addition to our efforts to provide support, I believe we also have much to learn from the resolve, generosity, and enthusiasm of the organizations receiving support. I hope that JVPF will lead to further growth going forward for parties providing support as well as for those receiving support.



SIP理事(株式会社クロスポイント・アドバイザーズ 共同パートナー) Partner, Crosspoint Advisors Inc Member of the Selection Committee

野宮博|Hiroshi Nonomiya

16年間にわたりプライベート・エクイティ(PE)の現場に身を置き、 投資家として、さまざまな企業の成長の手伝いをしてきました。 こうした経験とスキルが社会貢献になりうるという事に気づかせて くれたのは、欧州でのベンチャーフィランソロピーファンドの活動 を広めた立役者のDouglas Millerでした。それ以来、PE投資の 経験者等でブレインストーミングを開始し、こうした活動に共感し ていただいた寄付者の方々にも恵まれ、なんとか日本での一号 ファンド組成にこぎつけました。志の高い起業家の皆さんが立ち上げ たソーシャル・ベンチャーと出会い、一緒に考え、成長の一助になる ことは、長い投資家生活の締めくくりとして、情熱を持って取り組む に値する活動だと確信しています。

As an investor who has spent 16 years in the field of private equity, I have played a role in helping many different types of companies to grow. Douglas Miller, who was a driving force behind the spread of venture philanthropy fund activities in Europe, noticed that my skills and background could make a useful social contribution. This led to brainstorming with others involved in private equity investing, and with the help of donors who shared our goals, we were able to launch Japan's first venture philanthropy fund. I am confident that being able to work with social ventures started by highly motivated entrepreneurs, and help them grow, will be a rewarding and valuable way to spend final phase of my career as an investor.



IVPFワーキンググループメンバー SIP理事 (慶應義塾大学 特任助教/Asian Venture Philanthropy Network 日本アドバイザー)

Director, Social Investment Partners (assistant professor, Keio University / Japan Advisor, Asian Venture Philanthropy Network) Member of the Working Group

伊藤 健|Ken Ito

今後人口が減少し、格差や高齢化が進行する日本社会には、投資 収益としての「社会的リターン」を念頭に、社会課題の解決を加速 させるベンチャー・フィランソロピーの取り組みがどうしても必要 だと感じていました。ベンチャー・フィランソロピーという概念を 初めて知ったのは2001年頃でしたが、日本におけるVPはコンセプト だけが先行し、実践が伴わない状態が続いて来ました。ここに来て、 ソーシャル・インベストメント・パートナーズのような日本のプライ ベート・エクイティ投資のリーダー、そして日本最大の民間財団である 日本財団が先導的な役割を果たし始めたことに、日本に求められ るソーシャル・セクターの変容が象徴されていると感じています。

With Japan's population decreasing and aging and gaps emerging in society, I consider venture philanthropy, based on the concept of a 'social" return on investment, to be absolutely necessary as a way of accelerating the resolution of social issues. I first learned of the concept of venture philanthropy around 2001, but in Japan at that time this was only a concept that had yet to be implemented. Since then, top Japanese private equity investors like Social Investment Partners and Japan's largest private-sector foundation, the Nippon Foundation, have begun to play a leading role in this field, and I believe this is bringing needed change to the face of Japan's social



JVPF委員会メンバー/JVPFワーキンググループメンバー 日本財団 公益・ボランティア支援グループ 東日本大震災復興支援チームリーダー

Chief Manager, Disaster Relief Team, Nippon Foundation. Member of the Selection Committee and Working Group

青柳 光昌 | Mitsuaki Aoyagi

日本にも、「社会的投資」という考えや動きを広めて、多くの社会的 事業を成功させたい。その思いでJVPFは始まりました。社会にある 様々な問題に対して、ご自身の資金を有効に使っていきたいと 考える皆さまと、そうした「意思のある資金」を必要としているNPO などとをつなぐ役目をJVPFは担おうとしています。また、単なる資金 提供ではなく、いかに社会問題の解決へ導くことができるのか、 我々は資金提供先への経営支援も同時に行っています。こうした 資金と経営支援の双方で事業の成果を上げることによって、我が国 にも「意思ある資金」の好循環を作り出していきたいと考えています。

We would like to see the concept of "social investment" spread in Japan and contribute to the growth of many social enterprises. This was the idea behind the launch of JVPF. JVPF plays the role of a bridge, bringing together groups and individuals who have funds that they want to use effectively to address the various issues facing society, and nonprofit organizations that need "funds with a purpose." Furthermore, we do not simply provide funds; we also provide management support to grant recipients to guide them toward fundamental solutions for social issues. By promoting the growth of enterprises through both funding and management support, I hope we will be able to create a positive cycle of creating and using "funds with a purpose" in Japan.



IVPFワーキンググループメンバー 日本財団 経営支援グループ 事業企画チーム 社会的投資推進室 室長代理

Associate Director of Social Finance, Management Support Department, Nippon Foundation Member of the Working Group

工藤 七子 | Nanako Kudo

これまで市民セクターの役割は政府にも企業セクターにも答えら れないニーズに対応する補完的なもの、と認識されてきましたが、 最近のNPOや社会企業家はよりダイナミックに社会や経済の仕組を 変えていく主体へと変化しつつあると思っています。JVPFの支援先 はまさにそんな役割を意識して社会にどのような変化を起こすべ きか、具体的かつ戦略的に取り組もうとされている組織です。こう いった革新的な団体の成長に不可欠な長期的資金と経営サポート を提供をすることは社会的な意義が大きいだけでなく、何より本当 にワクワクします!日本財団独自では決して実現できなかった新し いパートナーシップをますます発展させていけるよう尽力していき ます。

There has been a view that the role of civil society is a supplemental one, to meet needs that cannot be addressed by the government or corporate sectors, but I believe that nonprofits and social entrepreneurs have recently become more dynamic and are the driving force behind changes in the social and economic framework. Recipients of JVPF support are organizations that take this role to heart, to identify what social changes are needed, and work to bring about those changes through specific, strategic activities. Providing these innovative organizations with long-term funding and management support that are essential to their growth is not only important in terms of social significance, it is also very exciting! I will work to further develop these new partnerships in areas in which the Nippon Foundation could not have achieved success on its own.





株式会社 ベネッセホールディングス グループ新規事業開発室 担当課長(事業投資)

Manager of Corporate Investment Business Development, Benesse Holdings

近藤 篤 様 | Atsushi Kondo

JVPFは「社会的投資」が社会課題に対してどう対処出来るか、という難問に 車正面から取り組まれている志の高い取り組みだと思います。そしてJVPFを 通じて、私たち民間セクターもなにが出来るかを問われているのだと思います。 取り組まれている対象分野が教育セクターはじめ弊社ベネッセの事業と重複 する領域も多く、取り組みの中でご一緒できるところもあるのではと期待をして

I believe JVPF is an ambitious undertaking that squarely addresses the difficult challenge of how "social investment" can tackle social issues. JVPF also gives those of us in the private sector a chance to ask what we can do. There are many sectors, like education, in which JVPF is working that overlap with Benesse's businesses, and I look forward to being able to work together in these areas.

日本財団とプライベート・エクイティ投資家の皆さまが、日本の社会的投資市場 を更なる発展に導くためのパイロット基金として、共にJVPFを設立されたこと を大変喜ばしく思います。私はグローバルに働く投資家として、新たな事業に 取り組む際に思慮深さ、リスクの管理、詳細なプランニング、そして効果的な事業 遂行が必要となることを常に実感しています。パイオニアが上記のアクション をとる際、業務の進行につれ、未知なことや調整を必要とすることが多く存在す ることを理解しながら、事業を実施することが重要です。パイオニアという存在 がいてこそ、社会的投資のコンセプトは研究や会議、賞などにとどまることなく、 決定的なアクションとなり得るのです。世界40カ国で活動を行うAVPNは、その グローバルな知見を持ってお手伝いすることができますが、私は日本のユニーク さを理解する、日本財団及び日本人投資家の皆さまによってJVPFの成功が 可能となると信じています。

I am very pleased to see the initiative between Nippon Foundation and the private investors in establishing the JVPF as a pilot fund to further develop the social investment market in Japan. As an investor who works globally, I fully realize that embarking on a new venture requires careful thought, evaluation of risks, detailed planning and then effective execution. It's important that pioneers do this and then proceed to execute, recognizing there are a lot of unknowns and adjustments will need to be made as the operations progress. Without pioneers, the concept of social investment remains only research, conferences, awards, all of which are necessary precursors to definitive action. AVPN, with global knowledge (active in 40 countries) can assist but I recognize the uniqueness of Japan and the importance that The Nippon Foundation and the other Japanese investors bring to the JVPF in making it a success.



European Venture Philanthropy Network 創立者 Asian Venture Philanthropy Network 会長

Founder of European Venture Philanthropy Network Chairman of Asian Venture Philanthropy Network Advisor of SIP

ダグ・ミラー 様 | Douglas Miller

Case Voice: Supporters About Contribution Schedule Financial Summary

# 方 課後 NPO

#### 取り組む課題|Issues being addressed

- 一日本の子どもたちの自己肯定感や対人関係の調整能力の低下など、 ① Social withdrawal by Japanese children, the result of a 「内面的ドロップアウト」と呼ばれる状況
- 一共働き世帯やひとり親世帯を中心に、保育園の時代は子どもを 預ける先があったものの、小学生になると放課後の子どもの預け先 ② The "first grade and fourth grade barriers." Most common が質・量ともに不足していて、結果として仕事を辞めざるをえないと いう「小1・小4の壁」問題
- decrease in opportunities for self-affirmation and a decline in the ability to interact with others.
  - among working parents and single parents who send their preschool children to child care, but are forced to stop working when their children enter elementary school because of a lack of quality after-school care facilities.



放課後NPOアフタースクールは地域や企業の人材を市民 先生として放課後の小学校に派遣し、子どもに安全でより 楽しい創造的な放課後の時間を提供するプログラムを2005 年から実施しています。これまで首都圏を中心に300を超え る多様なプログラムを開発し、また1000人以上の地域住民 の方が参加してきました。JVPFは放課後NPOの活動の更な る展開を支援することで、子どもの生きる力の低下、学童 保育の質・量の不足、という社会課題解決を目指します。

After School has been providing "citizen teachers" from local communities and companies to elementary schools since 2005, to provide programs students with safe, enjoyable, and creative ways to spend their time after classes have ended. To date more than 1,000 local volunteers have participated in more than 300 diverse programs, mostly in greater Tokyo. By supporting the further development of After School's activities, JVPF aims to contribute to the resolution of the social issues of a decline in children's zest for living and the insufficient quality and quantity of after-school care.

#### ビジョン | Vision

全国で仲間が立ち上がり、その地域ならではの「アフタースクール」 Our vision is to invigorate children, parents, and communities by が展開され、各地域でネットワークを強めながら、「子ども、親、地域を 元気にしていく」のが私たちのビジョンです。

### 6つの特徴|

放課後の学校に開校	低価格で誰でも
Schools remain open after classes	Low cost means anyone can attend
学童保育の預かり機能	学校と連携
Child care function	Coordination with school
市民先生の多様なプログラム	異世代交流の場
Variety of programs led by citizen teachers	Interaction across generations

building a nationwide alliance of motivated individuals to set up After School programs and strengthen networks within their

スタッフコンセプト| Staffing Concept

子どもたちの可能性を信じる

プロ意識

親・教師を巻き込む

自己肯定感

14

16





放課後NPOアフタースクール 代表理事 Representative, After School 平岩 国泰 | Kuniyasu Hiraiwa

基金のご支援を受けることが出来て大変身が引き締まる 思いです。長期にわたって私どもに向き合ってくださり、資金 と経営支援をいただけることが本当にありがたいことです。 今回のご支援にあたり、4ヶ月以上にわたり私たちの今後 の方向性について議論させていただきましたが、その時 間が私たちにとって大変貴重なものでした。具体的な戦略 立案はもちろんですが、一緒に私たちのことを真剣に考えて くださる方がいる、ということが何より心強くもありました。 基金のご支援をいただいた第1号として、ぜひ好事例となり、 今後の日本におけるNPO文化発展に貢献したいと願って おります。

We are pleased to have been able to receive support from JVPF, which gives us a renewed sense of determination going forward. We are truly grateful for the funding and management support that this means for us over a long-term timeframe. Prior to receiving this support, we spent more than four months discussing After School's future direction, and this was a very valuable time for our organization. In addition to formulating a concrete strategy, I am extremely grateful for the experience of having partners working together with us in carefully mapping out our future. We are especially pleased to be the first recipient of JVPF support, and hope that this will contribute to the development of an NGO culture in Japan going forward.

#### 団体概要 | About After School

団体名 Name	特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール   After School
年間予算規模 Annual budget	6,500万円(2013年度決算) ¥65 million (fiscal year ended March 31, 2013)
設 立 Established	2005年。2009年に法人化 2005 (registered as a specified nonprofit corporation in 2009)
スタッフ数 Employees	本部:7名   7 (office staff)
事業の概要 Activities	<ol> <li>アフタースクール運営         小学校の放課後で、学童保育の預かり機能に加えて、企業人材や地域住民が「市民先生」となって放課後プログラムを提供するアフタースクール事業の企画・運営         ② CSR支援             企業の子ども向けプログラムの開発支援、次世代育成CSR支援             ③ コミュニティデザイン             子どもを核にしたコミュニティづくりの企画・運営      </li> <li>① Operation of After School programs         In addition to providing an after-school care function for elementary school children, planning and operation of after-school programs led by local "citizen teachers."     </li> <li>② CSR support         Support for companies' development of programs for children and activities to foster the next generation.     </li> <li>③ Community design         Creation of child-centered communities in areas damaged by natural disasters and other designated communities, based on After School's activities.     </li> </ol>
事業の アウトカム・インパクト Outcomes and impact	<ol> <li>子どもの生きる力の向上(自己肯定感、コミュニケーション能力、学力)</li> <li>子どもの安全な居場所の確保</li> <li>保護者のQOLの向上(子育て環境、就労機会の創出)</li> <li>Improving children's social skills (positive self impression, communication ability, academic performance)</li> <li>Ensuring security for children after school</li> <li>Improving parents' quality of life (parenting environment, facilitating employment opportunities)</li> </ol>
URL	http://www.npoafterschool.org

#### 放課後NPOアフタースクールへの支援内容

#### Support for After School

- 支援予定期間 | Scheduled period of support 3年3力月(2013年12月~2017年3月) | 3 years and 3 months (2013 December~2017 March)
- 支援金額·手法 | Amount and method of support 2千万円·助成金 | 20 million yen / Grants
- 主な資金使涂 | Primary use of funds 事務局長、及びエリアマネージャー人件費 | Personnel expenses for head office and area managers
- 支援の進捗と今後のアクションプラン | Status of support and future action plan 12月よりJVPFによる支援を開始しました。当面は月次で定例会議を持ち、公立校事業、私立校事業、企業・行政事業、 と事業ごとに進捗をモニタリングしていきます。初年度の主な達成目標は以下の通りです。

JVPF started providing support from December 2013. For the time being, we will have a monthly meeting and monitor the progress of each project. Project areas include public schools, private schools, and corporations/government. The main goals for the initial year are as follows

SIPから1名の理事受け入れ	完了	3月の放課後NPO理事会にて決定
Receive a director from SIP	Completed	Decided at After School's board of directors meeting in March
本部スタッフ3名の採用	仕掛	募集·選考中
Recruit three staff members for the head office	In progress	Currently recruiting and selecting
社会性的インパクトの可視化	仕掛	リサーチ結果に基づいて社会性KPI策定中
Visualize the social impact	In progress	Planning social KPI based on research results
公立校向けパイロットプログラムの立上げ	仕掛	湘南エリアにて基盤作りに着手
Launch a pilot program for public schools	In progress	Began preparations in Shonan
リーガルチェック	仕掛	クリフォードチャンスとのミーティングを実施
Confirm legal issues	In progress	Meeting held with Clifford Chance
PR・ロビイング戦略策定とメディア露出の向上 Plan public relations and lobbying strategy and media promotions	仕掛 In progress	ボックスグローバル・ジャパンとのミーティングを実施 Meeting held with Vox Global Japan

#### 支援のゴール

#### Goals of support

- ① 収益性を伴った運営モデルの確立とスケールアウト スケールアウトの為の収益モデルを確立し、支援期間中に1校の公立校でのアフタースクール事業導入
- ② 事業基盤の確立 本部組織を中心に3名を採用し組織体制を強化。人材育成プラン、リスク管理体制、ガバナンス体制の整備
- ③ Stakeholder Relationの充実 社会的インパクトの可視化、事業の認知向上とPRの強化
- ① Establish an operations model with profitability and scaling out Build a profitable model for scaling out, and introduce the After School program to one public school during the support period
- ② Build a business base Recruit three staff members for the head office to strengthen the organization's structure, and develop a human resources training plan, risk management system, and governance system
- 3 Improve stakeholder relations Develop a public relations strategy for visualizing social impact and raising recognition

# ☆放課後NPO

### アフタースクールで変わっていく子どもたち

Children Being Changed by After School

# 「少年素材王」

Ingredient King

初めてのアフタースクールのプログラムは「和食」でした。 「市民先生」は赤坂の和食の料理人の方。子どもたちに和食 のことを教えてほしい、とお願いしたところ二つ返事で受け てくださいました。

やってきたのは小学4年生の少年。当時の彼はお母様曰く、 「勉強もスポーツも得意ではなく、クラスの子たちと比べて 気遅れしていたようです」。確かにはじめにアフタースクール に来た時に元気がありませんでした。しかし彼が輝く瞬間 がやってきました。先生は、料理の前にその日の食材に ついて日本地図を前に「この素材はどこで採れたと思う?」 そんな素材当てクイズをしてくれました。「カツオは高知県!」 そこで彼は正解を連発したのです。私たちは「君は素材王だ」 と呼びました。低学年の子も「お兄ちゃんすごいね」と尊敬 し始めました。聞けば彼はスーパーなどで食材の産地を見 ていました。その知識が放課後に花開きました。先生も彼を 「一番弟子」と呼び始め、「君が来てくれないと困る」という 言葉をかけてくれました。この言葉は彼を変えました。

その後彼はみるみる元気になってきました。家庭でも料理 を任され、親御さんから「助かるわ」と声をかけてもらいま した。学業や友人関係にも好影響もあったそうです。お母様 は「息子の出来ないところばかり見てしまっていたのが、 180度変わり、出来ることに注目するようになりました」と 仰いました。

どの子どもにも絶対にいいところがあります。そしてそれを 褒め、伸ばせば、子どもたちは必ず真っ直ぐに成長します。 アフタースクールではこれからも、市民先生と共に「子ども たちのいいところ探し」をしていきたいと思います。



The first After School program was "Washoku (Japanese

The program was taught by a citizen teacher from a famous Japanese restaurant in Akasaka, Tokyo. After School wanted to teach children about Japanese cuisine, and this teacher immediately replied that he would be happy to volunteer. One of the children who participated was a fourth-grader who, according to his mother, was not doing particularly well in his studies and was not good at sports, and seemed to be falling behind his classmates. Naturally, when he first came to the program he showed little enthusiasm, but there was soon a breakthrough. Before preparing the food, the teacher presented the ingredients that would be used, and using a map of Japan, asked the children to guess where the ingredients came from. This boy exclaimed, "Katsuo (bonito) is from Kochi!" and went on to give a succession of correct answers. We nicknamed him "Ingredient King," and younger students also began to look up to him. It turned out that this student paid attention to the location indicated on food labels at the supermarket, and that knowledge blossomed in the After School program. Teachers also began to call him their "No. 1 student" and say that they missed him when he wasn't there. This attention

He soon became increasingly lively. He even cooked at home, and his parents told him he was a big help. This also had a positive effect on his schoolwork and his personal relationships. His mother said, "I used to look at my son in terms of what he couldn't do, but now I have changed 180 degrees and focus on what he can do."

Every child has some positive quality. Praising and nurturing those qualities is certain to lead to children's growing up to be upstanding citizens. After School will continue to work with citizen teachers to "bring out children's positive

# 「みんなちがって、みんないい」

Everyone is different; everyone is good

アフタースクールには色々な子が来ます。1年生から6年生、 男の子女の子、背の大きい子小さい子、そして普段は支援 学級に通う子どももやってきます。学年などでクラス分けを する授業と違って、放課後はなるべくみんなで一緒に過ご School's programs encourage all students to participate. してほしいと願っています。

ある日「音楽」のプログラムがありました。市民先生は、地域 のアフリカ太鼓の得意なお兄さんです。この先生は面白い。 まず大きなポリバケツいっぱいに入った割れない食器を 床にたくさん広げました。鍋や皿、お玉などたくさんあります。 「さぁみんなで自由に叩いてみよう!」先生の掛け声で、 子どもたちは一斉に取り掛かります。「え、いいの?」という 顔をしている子もいます。普段は食器をお箸で叩くと注意 されます。「今日は特別、どんどん叩こう!」という先生の 掛け声で、みんなますます叩きます。素材や叩き方で色々 な音がすることを子どもたちも発見します。

その後みんなでペットボトルや石などで、手作り楽器を作り ました。そしてみんなで演奏です。輪になって、先生の太鼓 も重ねて、みんなでリズムをとっていきます。そこで大活躍 したのが支援学級に通うA君でした。DJさながらの素晴ら しいリズム感覚を発揮し、みんなのリズムをまとめていき ます。最後には彼が輪の中心になって、みんなでリズムを 重ね、最後に「バン!」とリズムが揃いました。A君にみんな が拍手喝采。彼の素晴らしい音楽の才能をみんなが感じ た瞬間でした。

「多様性を認め、可能性を信じ、個性を伸ばす」これがアフター スクールのスタッフの基本スタンスです。「みんなちがって、 みんないい」これからもたくさんの輝く才能を放課後に発見 accompanying them on *a taiko* drum, they started to make し続けていきたいと思っています。

All types of children attend After School programs: boys and girls, tall and short, from first graders to sixth graders, and even children who ordinarily attend special classes. Unlike regular classes, in which students are grouped by year After



On day there was a "Music" program. The citizen teacher was an interesting character, who was known in the community for his expertise in African drums. First, he emptied a large plastic bucket of unbreakable kitchen utensils and spread them out on the floor. There were many pots, plates, ladles, and other items. He told the children to bang these items together however they liked, and with some encouragement the children all began banging away. Some had a look of "Is it OK to be doing this?" Normally, a child would be scolded just for tapping chopsticks on a plate, but the teacher said, "Today is special, bang away!" With this encouragement the noise became louder and louder, and gradually the children discovered that different materials struck in different ways produced a variety of different sounds.

Next, the students used plastic bottles, stones, and other items to make their own musical instruments, and then they played a song. Standing in a circle, with the teacher rhythms. One of the most enthusiastic members was a boy who attended special classes. He showed a superb sense of rhythm, just like a DJ, and others began to follow his lead. Eventually, this boy was in the center of the circle, and all of a sudden the rhythms came together as one. At this moment everyone became aware of his musical talent.

The staff of After School firmly believes that "everyone has some positive quality." We will continue to discover the dazzling talents of as many children as possible, with "Everyone is different; everyone is good" as our motto."

About JVPF Talk Situation Members Voice: Donors Support Case Voice: Supporters About Contribution Schedule Financial Summary





プロボノパートナー ベイン・アンド・カンパニー・ジャパン マネージング ディレクター

Managing Director, Bain & Company Japan Pro bono partner of JVPF

奥野 慎太郎 様 | Shintaro Okuno 営利法人と同じく、非営利法人が社会に及ぼすインパクトを拡大し、それを持続させるためには、資金の手当てだけでなく、戦略や運営体制の整備、プライオリティの明確化と共有がより重要になります。逆にそれができれば、そこから生み出される実績が新たな資金獲得につながり、また他の社会起業家を活性化させることにもなります。単なる資金援助にとどまらず、案件に深く入って各分野のプロフェッショナルがそうした支援を提供するJVPFの活動は、日本の非営利セクターのポテンシャルを大きく開花させる可能性を有しています。国内で5年以上に及ぶ弊社の非営利セクターへのご支援の経験をもとに、そうした活動の一助となるよう、努めてまいります。

Like commercial companies, it is important for nonprofits to have ample cash, as well as strategies, management structures, and clear, common priorities if they are to increase and maintain their social impact. Conversely, if these are achieved, a track record will be created that will make it possible to acquire new funds, which can then be used to provide a start for other social entrepreneurs. JVPF's activities are not limited to simply providing financial support; we also provide support by having professionals from various fields become deeply involved in projects, making it possible to realize the full potential of Japan's nonprofit sector. Bain has been supporting nonprofits in Japan for more than five years, and we will use this experience to assist these activities.

ここ最近の出来事としては、弊事務所は、プロボノパートナーとして、日本ベンチャー・フィランソロビーの選定した「特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクール」の活動をサポートさせていただきました。法的観点から、放課後NPOアフタースクールの定款を確認したり、湘南学園小学校アフタースクールプロジェクトに際して、業務委託契約書、労働契約書、ボランティア用確認書面、利用規約のリビュー・チェックを行っております。NPOであることを除けば、私達の日常業務と特に相違のない業務であり、このような形で今後もお役に立てればと思っております。

Our office is supporting the activities of After School, an organization selected by JVPF, as a pro bono partner. This has involved confirming After School's articles of incorporation, and reviewing and checking outsourcing contracts, labor contracts, volunteer agreements, and facility regulations for one of After School's projects at the Shonan Gakuen Elementary School, from a legal perspective. Except for the fact that After School is a nonprofit, these activities are basically no different from our daily operations, and we hope to continue to be of assistance going forward.



SIP監事、プロボノパートナー クリフォードチャンス法律事務所 外国法共同事業 マネージング・パートナー

Office Managing Partner, Clifford Chance Law Office Auditor and Pro bono partner of SIP

神田 英一 様 | Eiichi Kanda



プロボノパートナー ボックスグローバル・ジャパン株式会社 バイス プレジデント

Vice President, Vox Global Japan K.K. Pro bono partner of JVPF

古橋 正成 様 | Masanari Furuhashi 当社は、主に、SIP様及び支援先である放課後NPOアフタースクール様における 広報活動の支援を行いました。今回の支援活動を通じて改めて実感したことは、 利害を超えた人たちを巻き込むことのできる強い求心力を、非営利組織が持っ ていることです。この求心力が、社会課題解決の原動力になるものと感じました。 社会活動が世の中に認知されればされるほど、この求心力は強まっていきます。 日本ベンチャー・フィランソロピー基金様の活動がさらに広がり、支援先である 非営利組織の求心力もさらに高まっていくことを期待しております。

Our company has primarily been involved in supporting the public relations activities of SIP and After School. This work has reminded me of the strong cohesiveness of nonprofit organizations of individuals who are interested in more than their own benefit. I believe this cohesiveness is the force that drives the resolution of social issues. This cohesiveness will become even stronger as these social activities become better known. I look forward to seeing JVPF's activities expand, and the cohesiveness of the nonprofit grant recipients increase, even further.

ソーシャルビジネスへの人材支援をライフワークにと考えていた私としては、まさに日本ベンチャー・フィランソロピー基金(JVPF)の理念やビジョンには強く共感しております。「志・パッション」×「経営メソッド・資金」により、さらによりよい社会の実現へのチャレンジを応援できると信じています。放課後アフタースクールをはじめとした、社会が必要としているサービス・ソリューションを更に拡散すべく、SIPメンバーの豊富な経験と実績、そして熱い想いが結集され、この「ベンチャー・フィランソロピー」という事業モデルが社会に浸透することを強く願います。さらに社会的インパクトあるソーシャルビジネスの創出が実現し、より一層JVPFが進化していくことを心より期待しています。

I consider human resource support for social businesses to be my life's work, and I strongly identify with JVPF's philosophy and vision. Through "ambition and passion" combined with "management methods and funding," I believe we can meet the challenge of creating an even better society. I sincerely hope that by bringing together the rich experience, expertise, and passion of SIP's members, we will be able to promote the "venture philanthropy" business model and further expand services and solutions that address society's needs, like those provided by After School. I also look forward to JVPF's further evolution through the creation of more social businesses that have an impact on society.



SIPアドバイザー 株式会社リクルート エグゼクティブエージェント エグゼクティブコンサルタント

Recruit Executive AgentCo.,Ltd. ExecutiveConsultant Advisor of SIP

森本 千賀子 様 | Chikako Morimoto

· プロボノパートナー | Pro Bono Partners ー

- ベイン・アンド・カンパニー・ジャパン / 経営支援提供
- クリフォードチャンス法律事務所外国法共同事業 / 法務面でのアドバイス、サポート
- $\bullet$  ボックスグローバル・ジャパン株式会社 / 政策提言・アドボカシーに関するアドバイス・サポート
- Bain & Company Japan / Management consulting
- Clifford Chance Law Office / Legal consulting
- Vox Global Japan K.K. / Policy and advocacy consulting

Situation Members Voice: Donors Support

# 寄付をお考えの皆様へ

### Making donations

日本ベンチャー・フィランソロピー基金(JVPF)が寄付者の方々からお預かりした資金は慈善ではなく、社会的インパクトを 実現するための「投資」だと考えています。寄付金がどのように活用され、どんな成果を生み出したのかを可視化し、寄付者 に対し定期的に報告を行います。

- ●四半期報告書(基金活動状況、支援先の事業進捗状況)
- 年次報告書(投資先の成果、基金の財務報告を含む基金全体の総括)
- ●アニュアル・ギャザリング(寄付者、プロボノパートナー、支援先スタッフなど関係者が一同に会して事業の進捗をご報告)
- シンポジウム(ベンチャー・フィランソロピーやインパクト・インベストメントをテーマにしたセミナーなどの開催)

At JVPF we regard funds from our supporters as "investments" to achieve a social impact, rather than charity. We will therefore visualize how donations are used and the outcomes they produce, through regular progress reports to donors.

- Quarterly reports (JVPF status and progress of projects)
- Annual reports (outcome of projects and summary of JVPF's activities, including a financial report)
- Annual gatherings (report to donors, pro bono partners, and staff on progress of projects)
- Symposiums (seminars on venture philanthropy and impact investment)

#### 税制上の優遇措置について | Tax incentives

当基金へのご寄付は、日本財団に設置された基金への寄付となるため、寄付者の方々は所得税・法人税など税制上の優遇 措置を受けることができます。

「税額控除」か「所得控除」のいずれか有利な方式を寄付者の方々が選択し、寄付金控除を受けることが出来ます。

多くの場合、「税額控除」を選択された方が、税額が従来よりも少なくなります。

Donations to JVPF will be treated as donations to a fund established by the Nippon Foundation. Donations are therefore eligible for personal income tax and corporate tax incentives.

Donors will be able to deduct contributions by selecting either "Tax credit" or "Tax deduction."

In many cases, choosing "Tax credit" will result in a lower final tax payment.

#### <個人様によるご寄付 | Donations from individuals >-

#### ① 税額控除の計算

(寄付金合計額-2,000円)×40%=税額控除額

※寄付金合計額は、年間所得金額の40%が限度額にたります。 ※税額控除額は、税額控除前所得税額の25%が限度となります。

#### (Total donations – 2000 yen) × 40% = Total tax credit

\* Total amount of donations is limited to 40% of annual income.
\* Amount of tax credit is limited to 25% of tax due prior to deduction of credit.

#### ② 所得控除の計算

21

(寄付金合計額-2,000円)=所得控除額

※寄付金合計額は、年間所得金額の40%が限度額になります。

# ② Calculation of tax deduction

(1) Calculation of tax credit

(Total donations - 2000 yen) = Total tax deduction

\* Total amount of donations is limited to 40% of annual income.

#### <法人様によるご寄付|Donations from corporations ➤

本基金に対する寄付金は、一般の寄付金とは別枠で、以下の金額を限度として損金算入することができます。 Donations to JVPF can be included in expenses separately from other donations. The amount is limited as follows.

#### 損金算入限度額 = (資本金等の金額 × 0.375% + 所得金額 × 6.25%) ÷ 2

※限度額は、その法人の資本や所得の金額によって異なります。

Limit = (amount of capital  $\times$  0.375% +income  $\times$  6.25%)  $\div$  2

寄付金を損金に算入するには、確定申告書に寄付金額を記載し、寄付金の明細書と領収証、また日本財団が 公益財団法人であることの証明書をご提出ください。

詳しくはお近くの税務署、税理士までご確認ください。

To include contributions in expenses, please list the amount of donations on the tax return form, and submit a full description and receipts for the donations, along with a certificate verifying that the Nippon Foundation is a public interest incorporated foundation.

Please contact your local branch office of the National Tax Agency or a tax accountant for further information.

# 企業の皆さまへ

### Collaboration with corporations

#### JVPFの企業サポート

#### JVPF's support to corporations

JVPFへの資金提供を企業の将来的な成長への投資に活用 ください。

Please consider the opportunity to fund JVPF as an investment for the future growth of your organization.



資金提供 Funding



グループへの参加 Participating in the JVPF Working Group



ワーキンググループメンバーとともに、案件発掘・選定、 戦略策定、経営支援、モニタリング、等事業投資の全ての プロセスに関わって頂くことが出来ます。

一定期間フルタイム、又はパートタイムで人材を受け入れ、 Staff members may participate on a full-time or part-time basis for a designated period, and will work with the Working Group in the entire investment process, including project identification and selection, strategic planning, management support, and monitoring.

#### ワーキンググループ参加のメリット

#### Benefits of participating in the Working Group



#### ① 人材育成 | Human resource development

- 社員のスキルを改善し革新するような多様な機会の提供
- 社員が企業理念を再認識するとともに、自身のスキルや 所属する企業への自信と誇りを取り戻す
- セクターや立場を超えたコミュニケーションの機会になる
- Diverse and innovative opportunities for improving employees' skills.
- A chance to re-establish a corporate philosophy and instill employees with confidence and pride in their own skills and organizations.
- Great opportunity for cross-sector and cross-position communication.



- 社員の創造性、生産性、コミットメントの向上、新しい発想 や起業家的文化の醸成
- 新たな商品やサービスのインキュベーション、既存商品・ サービスの改善
- 新市場やニッチ市場の開拓、それらの市場における機会 やリスクに対する理解の深化
- Enhance creativity, productivity and commitment, and create entrepreneurial minds and innovative thinking.
- Incubate new products and services, and update existing products and services.
- Pioneer new and/or niche markets, and develop an understanding of those markets' opportunities and risks.

ギャザリング実施、勉強会も3回開催し、継続してWGを行いながら 第二号支援対象先の精査を行っております。

本年度はワーキンググループ (WG) を9回、選考委員会2回を経て、 During fiscal 2013, the Working Group met nine times and the 支援対象先の絞り込み、検討を行い、12月に放課後NPOアフター selection committee met twice. These meetings examined and スクールへの支援を正式決定しました。その他初のアニュアル・ narrowed the field of candidates, leading to the official announcement in December of After School's selection as the recipient of support. The first Annual Gathering was also held, along with three study sessions. The Working Group continues to meet to screen candidates for the second recipient of support.

Bain & Company勉強会@日本財団	2013.5.16	Study session with Bain & Company at the Nippon Foundation
第一回Working Group MTG開催 団体ヒアリング結果の共有、 支援候補先選定基準や審査プロセスについて議論	2013.6.3	1st Working Group meeting discusses organization interviews, criteria for grant recipient selection, and screening process
第二回Working Group MTG開催 支援候補先の精査、検討	2013.7.1	2nd Working Group meeting further considers grant recipient candidates
第一回選定委員会開催 支援候補先の絞り込み、四半期の進捗報告	2013.7.10	1st Selection Committee meeting narrows grant recipient candidates and makes quarterly progress report
第三回Working Group MTG開催 支援候補先へのヒアリング結果・状況の共有 今後のアクションブランの検討	2013.7.29	3rd Working Group meeting discusses results and status of candidate interviews and considers subsequent action plan
SROIについての勉強会@日本財団	2013.7.29	Study session on SROI at the Nippon Foundation
第四回Working Group MTG開催 支援候補先の審査プロセスの情報共有と 今後の進め方の共有	2013.8.29	4th Working Group meeting discusses due diligence process for candidates and how to proceed going forward
第五回Working Group MTG開催 一号案件の現状と見込み報告、 一号案件以降のパイプラインについて議論	2013.10.1	5th Working Group meeting makes report on current status and expectations for first project, and discusses pipeline for subsequent projects
放課後NPOによる最終プレゼンテーション	2013.10.24	Final presentation from After School
第二回選定委員会開催 第一号支援先(放課後NPO)の審議・決定	2013.10.29	2nd Selection Committee meeting deliberates and decides on first grant recipient
第六回Working Group MTG開催 放課後NPOとの契約、今後の進め方について議論	2013.11.26	6th Working Group meeting discusses contract with first grant recipient and how to proceed going forward
支援先決定(放課後NPOアフタースクール)	2013.12.6	Selection of After School finalized
アニュアル・ギャザリング開催	2013.12.10	Annual Gathering held
六本木のザクラシカ東京にて、JVPFの初年度の活動報告と、 基金による初の支援先のお披露目の為に開催され、 寄付者、プロボノパートナー、メディア関係者を含め、 約70名の方々にお越しいただきました。		Approximately 70 people, including donors, pro bono partners, and members of the media, gathered at The Classica Tokyo in Roppongi. A report on JVPF's first year of activities was presented, and the first recipient of support was introduced.
放課後NPOとの12月月例会議開催	2013.12.20	December monthly meeting with After School
第七回Working Group MTG開催 案件パイプラインと二号案件の検討 基金募集について議論	2014.12.25	7th Working Group meeting considers pipeline and second project, and discusses fundraising
第八回Working Group MTG開催	2014.1.27	8th Working Group meeting
放課後NPOとの1月月例会議開催	2014.1.28	January monthly meeting with After School
放課後NPOとの2月月例会議開催	2014.2.25	February monthly meeting with After School
第九回Working Group MTG開催	2014.2.26	9th Working Group meeting
Asian Venture Philanthropy Network セミナー開催	2014.2.26	Asian Venture Philanthropy Network seminar
欧州における社会的投資の現状 一 助成財団による社会的投資」		"Social Investment in Europe: Social Investment by an Assisting Foundation"
AVPN会長のダグ・ミラーを招き、 欧州での社会的投資の現状についての報告と意見交換を行う ラウンド・テーブルを開催致しました。		Douglas Miller, chairman of AVPN, was introduced and gave a report on the current status of social investment in Europe, which was followed by a roundtable discussion.
放課後NPOとの3月月例会議開催	2014.3.18	March monthly meeting with After School

財務状況

単位:円 | Unit:yen

#### Financial position

#### • 収入 | Revenue

	2013年 4~6月 Apr-Jun 2013	2013年 7~9月 Jul-Sep 2013	2013年 10~12月 Oct-Dec 2013	2014年 1~3月 Jan-Mar 2014
寄付金の受け入れ Donations received	51,538,000	3,000,000	0	3,000,000
日本財団からのコミットメント Commitment from the Nippon Foundation	51,538,000	3,000,000	0	3,000,000
合計 Total	103,076,000	6,000,000	0	6,000,000

#### • 支出 | Expenditures

	2013年 4~6月 Apr-Jun 2013	2013年 7~9月 Jul-Sep 2013	2013年 10~12月 Oct-Dec 2013	2014年 1~3月 Jan-Mar 2014
SIPへの業務委託 (支援先への経営支援) Outsourcing fees to SIP (management support to recipients)	5,000,000	0	5,000,000	0
支援金拠出 Support to recipients	0	0	20,000,000 (放課後NPO   After School)	0
合計 Total	5,000,000	0	25,000,000	0

#### • ファンド残高 | Fund balance

슴計 Total	98,076,000	104,076,000	79,076,000	85,076,000
-------------	------------	-------------	------------	------------

#### 寄付者名簿

2014.3.31現在(※50音順) | As of March 31, 2014 (Japanese alphabetical order)

#### **Donors list**

● 個人寄付者: 12名 | Individual donars: 12 people

伊藤 健 様 Ken Ito 白石 智哉 様 | Tomoya Shiraishi 奥本 真一郎 様 | Shinichiro Okumoto 高槻 大輔 様 | Daisuke Takatsuki 尾崎 一法 様|Kazunori Ozaki ダグ・ミラー 様 | Douglas Miller 小林 和成 様|Kazushige Kobayashi 野宮博様 | Hiroshi Nonomiya 澤田 美佐子 様 | Misako Sawada 福原 理 様 | Makoto Fukuhara 柴田優様 | Masaru Shibata 三尾 徹 様 | Toru Mio

• 法人寄付者:4社 | Corporate donors: four companies

株式会社ベネッセホールディングス | Benesse Holdings

ソネット株式会社 | So-net Corporation

他 2 社 | Two others



# SIP/日本財団 概要 About SIP / The Nippon Foundation

団 体 名	一般社団法人ソーシャル・インベストメント・パートナーズ
設立	2012年11月9日
法人形態	一般社団法人
所 在 地	東京都港区虎ノ門5-13-1 虎ノ門40MTビル7F
事業内容	当法人は、社会的な事業を行う様々な団体に対してその活動が社会的に貢献し、かつ事業の持続性を保持できるように運営に関して助言・援助を行うことを目的として、次の事業を行う。
	<ul><li>① 事業戦略・事業計画の策定</li><li>② 計画遂行のためのさまざまな経営資源の提供</li><li>③ 財務・内部体制の整備</li><li>④ 基金を通じた当法人の基金および外部提携先財団の紹介等による資金提供</li><li>⑤ その他、当法人の目的を達成するために必要な事業</li></ul>
代表者	代表理事 白石 智哉
人員構成	理事6名、監事1名、アドバイザー5名(2014年4月1日現在)
U R L	http://sipartners.org/

Organization	Social Investment Partners
Established	November 9, 2012
Corporate form	General incorporated association
Address	40MT Building 7th Floor, 5-13-1 Toranomon, Minato-ku, Tokyo, 105-0001, Japan
Business	SIP is engaged in the following activities, with the aim of providing advice and financial support to diverse social purpose organizations. Through these activities, we strive to help organizations maximize their social impact and maintain business sustainability.
	<ol> <li>Support decision making in business strategy &amp; planning</li> <li>Provide a variety of business resources to support the implementation of plans</li> <li>Establish financial systems and an effective organizational structure</li> <li>Provide financial support through the Fund</li> <li>Other activities necessary for the achievement of SIP's goals</li> </ol>
Representative	Tomoya Shiraishi, CEO
Personnel organization	6 Board members, 1 Auditor, 5 Advisers (as of April 1st, 2014)
URL	http://sipartners.org/

団 体 名	公益財団法人日本財団
設立	1962年10月1日
法人形態	公益財団法人
所 在 地	東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル
事業内容	日本財団は、ボートレース事業からの拠出金や企業、個人からの寄付をもとに、海上の安全確保、福祉や教育の向上、人道援助や人材育成を通じた国際貢献など、人々のよりよい暮らしを支える活動を推進しています。
基本財産	288億円(2013年3月末日)
代 表 者	会長 笹川 陽平
人員構成	役員10名、評議員8名、職員、嘱託138名(2014年5月19日現在)
U R L	http://www.nippon-foundation.or.jp/

Organization	The Nippon Foundation
Established	October 1, 1962
Corporate form	Public interest incorporated foundation
Address	The Nippon Zaidan Building, 1-2-2 Akasaka, Minato-ku Tokyo 107-8404, Japan
Business	The Nippon Foundation promotes activities that enrich people's lives in areas including maritime safety, social welfare and education, and international contributions through humanitarian aid and human resource development, using a portion of proceeds from motorboat racing and donations from corporations and individuals.
	<grant programs=""> <ul> <li>Activities related to "enhancing communities", "in the cause of life", "a future for youth" and "enriching culture"</li> <li>Activities related to "our maritime future"</li> <li>Activities related to "forging global ties" and "toward human security"</li> </ul></grant>
	<other activities=""> • Creating a fundraising culture • Promotion of CSR</other>
Fundamental property	28.8 billion yen (as of March 2013)
Representative	Yohei Sasakawa, Chairman
Personnel organization	10 Board members, 8 Counselors, 138 employees (full-time and contract staff; as of May 19th, 2014)
URL	http://www.nippon-foundation.or.jp/



日本ベンチャー・フィランソロピー基金 Japan Venture Philanthropy Fund

〒107-8404 東京都港区赤坂1丁目2番2号 日本財団ビル

2-2-1 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-8404 Nihonzaidan-Building

TEL:03-6229-5111(代表)

E-Mail: jvpf@ps.nippon-foundation.or.jp

http://www.jvpf.jp